

Title: 「股旅-gdeh special-」



山市 真佑
1985年栃木県生まれ。祖父母に多大な影響を受けながら育つ。滝の原健児の気持を今でも忘れていない。日本写真芸術専門学校助手を経て、現在大学院生兼フリー。

● 最近のエントリー

☑ [たびだつ。](#)
(2011.03.02)

● アーカイブ

☑ [Oktober 2012](#)
☑ [März 2011](#)
☑ [September 2010](#)
☑ [August 2010](#)
☑ [März 2010](#)
☑ [Februar 2010](#)
☑ [März 2009](#)
☑ [Februar 2009](#)
☑ [November 2008](#)
☑ [Oktober 2008](#)
☑ [September 2008](#)
☑ [Juli 2008](#)
☑ [Juni 2008](#)
☑ [April 2008](#)
☑ [Januar 2008](#)
☑ [Dezember 2007](#)
☑ [November 2007](#)
☑ [Juli 2007](#)
☑ [Mai 2007](#)
☑ [April 2007](#)
☑ [März 2007](#)
☑ [Februar 2007](#)
☑ [Januar 2007](#)
☑ [Dezember 2006](#)
☑ [November 2006](#)
☑ [Oktober 2006](#)
☑ [September 2006](#)
☑ [August 2006](#)
☑ [Juli 2006](#)
☑ [Juni 2006](#)
☑ [Mai 2006](#)
☑ [April 2006](#)
☑ [März 2006](#)

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

☑ [countries report](#)

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
Your Vision, Our Future

RSS 2.0

股旅-gdeh special- > März 2011 アーカイブ

11.03.02

| **たびだつ。**

[Tweet](#)

[Check](#)



引越します。

栃木に引っ込みます。と言っても、ほぼ毎日都内に出ている気がするけれど、でもその前に、海を越えて、ちよっくら海外へ行ってきます。

27日はなんだか「横浜在住最後の日」なんてリアリティを微塵も感じなかった。院にいる先輩の家にお邪魔して、ギター弾いたりドリームウィーバーいじったり、猫とじやれたり、ゼノギアスのサントラ聞いたり。そうだ、その公園の近くにあって、「三角らーめん」というラーメン屋さんの話にもなった。僕が引越してきた頃にあったラーメン屋さんで、その後味が変わってしまい、店がなくなり、居酒屋になり、それもなくなり、今は中華料理店になっている。でも、その「三角らーめん」は美味しかった、という話をしたら、先輩は行っていなくて、すごく悔しがっていた。その時の「もう今は無い味なんだよな」という台詞に、なんだか涙が出そうになった。

先輩がからっぽになった僕の部屋を見て、「いつかここに違う人が入居したら、寂しいって、ほんとに感じるんでしょうね」と言った。その言葉も、真実だ、と思った。

僕は栃木に帰る。最後の日の雨が、僕が入居した時と似たような、春っぽい陽気の後に降った冷たいしとしと降る雨だったのを思い出して、アパートの外階段からみなとみらいを見下ろしてみた。霧海に沈んでいる、と感じられる程けづつはいいなかった。でも、いつだったか、そのけづる景色を見て、横浜が好きだ、と感じた。

今は、好きとか嫌いとかじゃない、違う尺度で横浜を感じているんだと思う。

離れば忘れていく道や風景があるだろう。そんな風に日常的にあったそんなものも消えるんじゃないか、と。

いつだかツイッターにも書いたけど、多摩川沿いを歩いて、川向こうに見える小杉の夜景とか、自分がその時歩いていた閑静な住宅街とか、そのほっこりした気分が眺めていたら、麦秋のセリフ、「東京も悪くないぞ」、と言われた気がして、震えた。その川沿いの道は、僕が川の写真を撮り始めた2005年の3月頃に前田さんと歩いた道に続いていて、僕はその日は多摩川駅から東横線に乗って帰った。

こんな風に瓦解していくような思いが嬉しい。

そういういろんな事を一言でいうなら「かつて」なんだろうな。僕はここに住んでいたおかげで、いろんな人に、いろんな事に出会い、出遭った。それは幸せなんだろう。

師匠を師匠と慕い、友達と仲良くなったり喧嘩したり喧嘩別れしたり、恋に落ちたり、仕事をしたり、遊んだり、なんだか色々あったなあ。

4年もあればどこにいても「色々ある」。





東京は遠いもんだと思ってた。

その東京を、いつだったか、師匠の車に乗って走っているとき、師匠が「こうやって東京を車で走る日が来るなんて、高校生の頃なんて思わなかったよな」と言っていて、それが今でもいやに印象的に覚えている。あれは確か桜田門のあたりだったと思う。師匠は同じ栃木の出身で、宇都宮のあたりの話は多めに盛り上がった。その師匠の一言を、先日、横浜から栃木に向かう途中で渋谷に立ち寄り、都内の一般道をぐいぐい上り、栃木へ帰る途中で同じ車を同じように思った。これは師匠の影響なのか、自分の感想なのか、わからない、っていうくらい、自然に思った。まさか自分の運転で、しかも独りで軽自動車のハンドルをそこで握っている姿なんて、カメラを肩に東京をぶらぶら歩いていた学生時代は考えもしなかった。

そんなことをふと思ったのは、この間、六本木で友達2人と会って、彼らと新国立美術館と森美術館をはしごして、途中にご飯を食べて、なんてしている間、六本木通りや外苑西通りの辺りを歩いて、そういえばこの間、この外苑西通りを抜けたおかげで、一方通行マジックにひっかかった、と思い出したからだった。

それもその時だけで忘れていたのだけれど、ケータイの写メを整理していたら、その時に撮った、六本木通り沿いの写真があった。冒頭左の一枚。この風景を見て、友達の1人が「これやまייちゃんばいね」と言った。それも覚えていた。そして、そのとき思っていた上に書いたような事を一気に思い出した。

写真は、記憶を喚起するような媒体の1つなんだと思う。だいたい人は写真を見て、「この時xxxだったよね」とか、「ここ行ったことある」とか、「xx記念日」の写真だったりとか、そういうことを最初に思う。でもそれがアートの写真とは違う、とは思えない、というのがここ数年で僕が行き着いた感想だ。写真の普及はあくまで個人的な、私的な範囲での活用が主で、アートとしてその媒体を活用されるようになったのは、、、

そんなことを調べていた今冬。ここから抜け出すように、また写真を撮りに行く。どういう意味が付随して、どういう映像に僕の目が反応して、どういうことを考えて、感じ、咀嚼しようとするんだらう。

上にもちろっと書いたけれど、引越して早々だけど、日本を離れます。トルコ、ルーマニア、ブルガリア、とふらついて、30日に帰国します。まるまる一ヶ月間。友達曰く「ブルガリアって、治安やばいんでしょ？」と聴かれた。うーんどうなんだろうか。ポイベトとかカトマンズとかデリーの方が危ないイメージがあるんだけど。いずれにせよ、気をつけて、元気な顔で帰ってきます。お土産なんて期待しないでください。

旅。明日からです。

カテゴリ:

post by 山市 直佑 | 日時: 2011.03.02 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#)